

青楓塾 H24年 7月17日

(株)IHI 営業グローバル戦略本部ブラジルプロジェクト部長

相川 武利 先生 (本校31回生)

略歴の紹介

自分史

1、サラリーマンとしての倫理観・苦悩

- ・自社の枠を超え「国益」を意識して政府と話し合い判断する。
- ・心の役割—合理的な心が大切だと実感。(日本は海外の国より欠如)

2、プロジェクトの仕掛け人

- ・2011年8月～ブラジルプロジェクトチームに所属
- ・これまでは、数々の国に融資を行ってきた。相手を知ることが大切。(国の歴史・由来など)

3、日本の企業のために、日本のために

- ・東日本大震災がきっかけで日本のために何かできることを探し、日本企業で自分の力を生かそうと決意する。

皆さんに・・・

- ・グローバル化と言われる現代、どういう世界に生きていくのか、どういう人材が求められるかを考えて行動して欲しい。世界を展望して動く。
- ・個人の能力を高め、現在いる狭い場所ではなく、「世界の人々と競う」という高い意識を持つ。
- ・押し付けではなく、合理的なものの見方を身につける。
- ・日本古来のよさをみつめ直し、自分のものとする。(武士道にみられる日本人の精神力の強さなど)

質疑応答

Q1 グローバル化が進む中で私たちができることは何かありますか。

→表面的なものではなく、精神的なものを身につける。(判断する力、相手を思いやる心など)
他国の歴史を学び、過去を知ることによってわかり合うことにつながる。英語はもちろん大切。

Q2 震災のどのような点に影響をうけましたか。

→外資系の企業が、日本国内から出ていくのを見て、自国のためにできることを考えた。
そこで日本の企業から声が掛かったので転職した。

Q3 日本の企業は海外の優秀な学生を採用していると聞きますが、海外の学生と日本人の学生と比較してどう思われますか。

→人種、国籍問わず、人間性を重視するので、海外の学生が優秀であればそちらを選ぶ。
その人が今まで生きてきたなかで獲得したものが重要。